

わかまちふるっと探検記(6)

今月号は相去をあいなせご紹介します。

相去は、大正地区の東北東に位置し、大正総合支所から国道三八一号線を東に約十一・五キロメートル、北ノ川から北へ約四キロメートル、人口は七十人、世帯数二十四戸の集落です。



河内神社を中心に南、東、西に延びた集落となっています。南には一長七若宮(長七様)があり、東谷には「轟神社」、西谷には「おしんの宮」、その他に相去集落を山から見守るように「山の神様」が二カ所にあります。



轟の滝 「轟神社」の下に、「轟の滝」があり、その流れは2つに分かれていて「夫婦の滝」と呼ぶ人もいます。滝壺の左側に積まれた石垣も見応えがあります。

地域には「相去ハチキンググループ」と裏方(薪を集めたり、みそ倉を修理したり、土曜市の手伝い)の「いごつそグループ」があり、二組合わせて「相去おしどりグループ」として、活動しています。今年で三十五年になる「みそ作り」は、河内神社の隣に、旧集会所を改造したみそ倉と作業場があり、麴作りから、みそが完成するまで全て「相去ハチキンググループ」が作っています。大豆は窪川産、その他の材料は相去で収穫したものを

使用し、添加物ゼロのおいしいみそが出来上がります。



相去ハチキンググループの皆さん

みそ作りと同じころ始まった「土曜市」(場所：JA高知はた大正支所)も当初は旧大正町内の五ノ六グループが来店していましたが、現在は「相去ハチキンググループ」だけとなつてしまいました。

『みそ作り、土曜市と永年におしどり続けてこられたのも「相去さだ」と思っています。これを宝さだとして、これからも頑張っていこうと思えます』と話すのは、相去区長の中町さん。みそは、高知市の「あぐりショップ」や「道の駅四万十大正」にも出品しています。電話注文(代表 宮崎節子さん)も受けているそうです。

平成十八年十月、相去集会所において、鳥手に移住し



広田恵一 四万十川プラシケッチ旅原画展

て来られた広田恵一さんの「広田恵一 四万十川プラシケッチ旅原画展」を開催。原画二十点ほどを展示し、約七十人が鑑賞されたそうです。五月と十月にも個展を予定しているとのことでした。

また、相去には二家族のイターンの方がおります。「自然がけた違い」と、油田岳史さん。本格的な「田舎暮らし」を求めて来たそうです。「街で暮らすより贅沢。野菜は豊富で新鮮だし、星はたくさん出ているし、子どもたちにもいい環境だと思います」と話すのは、杉本雅子さん。お二方とも、「ずっと住むことができればいいですね」とおっしゃっていました。



杉本雅子さん 5人家族、在住5年目になります。



油田岳史さん 在住16年目、現在は3人暮らしです。

町の人口

(2月1日現在)
 男.....9,917
 女.....11,039
 計.....20,956
 世帯数.....8,801
 平均年齢 男性...48.1
 女性...52.8
 全体...50.6

四万十町ホームページアドレス
<http://www.town.shimanto.lg.jp/>